

## エゾスジグロシロチョウ

2012年5月13日は日曜日で母の日。前日12日は支笏湖ぶんぶんの森の植樹祭が曇り空寒風の中だったのですが、この日は「天気晴朗なれど風強し」という按配でした。北海道開拓の村恵迪寮において「都ぞ弥生」百年記念植樹会が恵迪寮OB多数の参加で行われました。当協会の参加者は7名、仕事は昨年秋に植えたエゾヤマザクラとチシマザクラおよびこの日に植えるカツラとハルニレの標柱を掘っ立てる作業でした。サクラたちは活着がよく花の時期は過ぎて葉桜になっていましたが、元からあるソメイシノは満開でした。



ちらほらと咲いているタンポポの黄色い花にひらひらとシロチョウがわたり飛んでいました。エゾスジグロシロチョウの春型の雄とみなしました。一見、モンシロチョウに見えますが、紋はなく裏の筋がすこしはっきりしています。筋といえはエゾシロチョウの方がはるかにスジグロという命名に相応しい筋の黒さだと思いますが、命名の順位が違ったのでしょうかね。

エゾと頭についていますが、分布は全国区、さらに地球規模ではヨーロッパ、北アフリカ、中央アジア、ヒマラヤ山麓と広範囲です。日本ではエゾの方が原住種でエゾのつかないスジグロシロチョウの方が外来だとされているようです。この両者の区別は素人には無理です。エゾの方がや

や小さいのも特徴といえます。食草はイワハタザオやコンロンソウ、イヌガラシなどのようです。

蝶の世界でも種類別の盛衰があり、本州ではモンシロチョウにのさばられているようですが、北海道ではモンシロの勢力は本州ほどではありません。これから温暖化が進むとモンシロが増えることになるかもしれません。

